



南極観測隊経験者に インタビュー



20次・26次越冬、30次・36次夏

かわくほ まもる
川久保守さん

国立極地研究所南極・北極科学館ミュージアムナビゲーター
(国立極地研究所 前広報室長)

(2016年7月現在)



南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

「設営一般」、当時は現在のような分担ではなく、夏隊では^{しよむ}庶務、輸送担当、^{かんがわ}現地での艦側との調整（ヘリオペランの準備も）など。越冬隊では総務、庶務、装備、野外支援の他設営各部門の助っ人（機械部門のワッチなど）など。



JARE 20 みずほ帰り



初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

「ようやく来られたか」

（それまで、仕事上で南極や昭和基地についてOBの先輩方に教えを請うと、「一度行けばわかる」と言われていたので）



一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

「一番印象に残ったこと」極夜が明けて、初めて太陽の光に照らされ、辺り一面全てがオレンジ色の光に包まれた時のこと。

「一番楽しかったこと」自然の営みや風景など驚きや感動があったこと。仲間との連帯ができたこと。

自分にとって南極とは「わっ！ 和！ 輪！」

南極観測隊での活動は、その任務のために自分が必要とされていることが実感できるものです。その居心地の良さを隊員となって楽しみましょう。